

2024年6月30日（土）

老球の細道809号

6月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

新年に誓った目標（体力の部）「3kmランニング走破」を遂に達成することができた。腰痛のために3年間走れなかったのが、健康時に走っていた近所の田園コース「3km」を走り切ることが今年の大きな目標であった。コースを5分割してステップバイステップでチャレンジした。足腰のふらつきと息苦しさに悩まされながらカメのごとくのペースで。こんなに早く達成できるとは、サプライズである。

そしてもう一つのサプライズ。県リフレッシュ講習会の期日を間違い、前日に郡山に行ってしまった。学ぶ気満々で出かけたのだが、期日の確認を怠ってしまった油断に後悔するばかり。体力の復活を喜ぶと同時に脳の劣化に警告を受けた6月であった。

1・映画から

◆「幸せな人かどうかは最後にわかる。ギリシャ人が言っていた」〈『AVA エヴァ』BSテレビ東京〉：ジェンダーフリーの時代にふさわしい物凄く強い女殺し屋エヴァが吐いた言葉。準備良ければ初めよし、初めよければ終わりよし。終わりよければすべてよし。

2・読書から

◆「問題の子どもというものは決してない。あるのは問題の親ばかりだ」〈『ニールと自由の子どもたち』堀真一郎著：黎明書房〉：30年以上前の本であるが、今も同じ状況らしい。親が本気になれば子どもは伸びる。爺婆が本気になれば親が変わる。

◆「最近の社会での子どもたちをめぐる諸問題。子どもはおとなの支えを求めているのに、おとなが自信をなくしている。早期知育偏重が感情発達を妨げている。幼いうちから“自分で判断しなさい”と言いつぎ、偽りの自意識を強要している」〈『シュタイナー教育を考える』子安美智子著：朝日文庫〉：これもまた30年以上前の本であるが、現在の教育事情とまったく変わらない。指導者は自分が信じることを、周囲に気兼ねせずきちんと教えてほしい。

3・新聞から

◆「パパはくさい。ママはめんどくさい」〈朝日：折々のことば〉：ある小学生の言葉。私も娘に「くさい」「キモい」とよく言われたものである。今は孫に「くさい」と言われて相手してもらっている。いずれ顔を背けられるまで束の間の平穏を楽しみたい。

◆「教員は教えたがるが学ばない」〈朝日：どう思いますか〉：コーチも同じかもしれない。教える立場にある人達は学び続けなければならない。学びを止めた時が引退である。

◆「やってみなわからへんよ」〈朝日：ひと・仲間しゅん〉：女性に性別変更しても「父」と認められることを最高裁で勝ち取った弁護士の言葉。前例や常識に縛られている時、思い出さなければいけない言葉である。バスケの試合こそ「やってみないとわからない」。

◆「そもそもの土台や型を知らなければ、型破りなことなどできはしない。ものを創る全ての人へ」〈朝日〉：歴史ドラマ作成の時代考証に携わる人の言葉。文化の発展は「守破離」。